

1 あいさつ

2 議題

（1）第3期岩倉市地域福祉計画の令和5年度進捗について

事務局から資料2について説明。

委員長：事務局評価は取組の内容と成果指標をそれぞれ評価してマトリクスに基づいて総合評価とするという説明であったが、評価シートを見ながらでないとは分からないこともあるかと思うので、一旦事務局案で進めさせてもらってよろしいでしょうか。

委員：問題ない。

委員長：では続けて進捗評価シートの説明をお願いします。

事務局から資料3について説明

・基本目標1－施策（1）について事務局から説明。

事務局：欠席委員より成果指標でアンケート結果を設定しているものについて、令和8年度のアンケート実施時に合わせて中間目標を設定してはどうかと提案があったので委員の皆さまから意見をいただきたい。

委員長：中間目標については全てのシートの確認が終わってからご意見をいただきたい。まずこのシートには単位施策が3つあり、それぞれの取組と成果指標を3つまとめて評価しているということだが、単位施策ごとの評価や取組にバラつきがあるとはいえ、取組内容はある程度できているし、成果指標も令和3年度に比べると前進していると言えるのでB評価でもいいのではないかと思うが、委員会評価は厳しめにつけた方が良いか。

事務局：委員の方が思われたとおりに評価していただきたいが、本計画は7年計画で先が長いので、そういった視点を持って評価していただけるとありがたい。

委員：事務局評価が大きく違うのではないかと思う部分はなく、順当ではないかと感じる。

委員長：それでは委員会評価もCとする。委員評価のコメントについては、本日の委員会内容を踏まえて後日事務局と調整させていただく。

・基本目標1－施策（2）について事務局から説明。

委員長：市民の参画による支え合いの地域づくりの中で支え合いの担い手の育成は重要なことだと思う。ボランティアセンター登録者数と登録団体数が減少しているということで、今の社会情勢を表す厳しい状況だなと思う。今後目標達成に向けての取組を注視していきたい。認知症サポーター養成講座を受講した人がどうやって地域の支え合いを担ってくれるか、ボランティアセンターに登録して

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

くれるかが重要になる。成果指標の改善に向けての取組が必要であるということで、委員会評価はCとする。

・基本目標1－施策（3）について事務局から説明。

委員：コミュニティスクールにはどんな人が参加しているか。学校関係者だけなのか、地域の方も入っているのか。

事務局：地域の方に参加いただいている。例えば子ども会の役員や行政区の役員、元校長先生、ボランティアをしてくれている方など各学校に10人程度いる。

委員：南部中学校地区では今年度準備委員会を行うが、委員会には地域の方に入ってもらう。学校側5役と地域から参加した委員が、学校運営を地域に支えてもらうための話し合いをする。コミュニティスクールが始まると学校と地域の間に関係の両方のことを良く知っているコーディネーターが入ってくれる。既に運用している岩倉中学校区から聞いた話では、元々地域の方は読書ボランティア等で学校を支えてくれていたのでコーディネーターが入ってすぐに大きく変わるわけではないということだった。学校主体で運営していたものを地域の方も同じように関わってもらうようになる仕組み。

委員長：地域つながりづくり会議は昨年度準備を進めたということだが、今年度は開催できる見込みということで良いか。

事務局：上半期には準備を終えて、下半期には実施していく予定。どの圏域で実施するかは未定である。

委員長：来年度の進捗報告を期待している。未来寄合や学校運営協議会制度等の地域づくりの取組が順調に進んでいるようなので、委員会評価はBとする。

・基本目標2－施策（1）について事務局から説明。

委員長：サロンの立ち上げ相談が2件あり、立ち上がった実績は1件ということだが、もう1件は立ち上がりに至らなかったのか。

事務局：相談のあったもう1件は令和6年度に大地町にサロンが立ち上がったので、令和5年度の進捗評価シートには実績として数えていない。

事務局：欠席の委員からゲートキーパー研修参加者数は同じ人が何度も受講しているか？何度も受けている方の追加研修やその後の活動は把握しているか質問をいただいた。複数回受講している方はいるが、その後の活動の把握はしていない。ゲートキーパーは資格等ではなく、日常生活の中で命の門番としての役割を果たすものであるため活動の把握は困難。また、ゲートキーパーは裾野を広げることが大事であると考えているため、ステップアップ研修のような追加研修は今の時点では考えていない。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員長：孤独・孤立化の防止に向けてある程度取組が進んでいるため、委員会評価はBとする。

・基本目標2－施策（2）について事務局から説明。

委員長：成果指標の設定がないシートであるが、取組は概ね順調に進んでいる。委員からの質問・意見もないので委員会評価もBとする。

・基本目標2－施策（3）について事務局から説明。

委員：令和6年4月から困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行された。困難を抱える女性への支援として岩倉市には女性自立支援施設や女性相談支援員があるのか。

事務局：岩倉市には該当の施設や支援員がないが、女性の抱える困難については家庭児童相談員等が相談にのり、必要に応じて関係機関につなげている。

委員：女性相談支援員は家庭児童相談員とはまた違った役割を担う人たちだが、岩倉市にないのであればないことをしっかり認識した上で困難を抱える女性の対応をお願いしたい。

委員長：住宅確保要配慮者への支援は住宅セーフティネット法の改正が国会でも審議されており、現行のセーフティネット登録住宅の使いにくさが解消されることが期待されている。今後は公営住宅だけでない支援が進むと良い。委員会評価はBとする。

・基本目標2－施策（4）について事務局から説明。

事務局：欠席の委員から個別避難支援計画の作成を、自主防災会が主体となるのか、民生委員が主体となるのか、両者が一緒に主体となるのか分かりにくいので、個別避難支援計画策定率を上げるために工夫したマニュアルを作成してほしいという意見をいただいた。個別避難支援計画は、今後市と本人（家族）と一緒に作成する。自主防災会と民生委員には作成した個別避難支援計画を提供するので、対象の見守りや日頃からコミュニケーションを取ってもらう等、地域でできる範囲の協力をお願いしていく。

委員：地区防災訓練で消防ホースを使用した訓練は行っているか。自分の住む地域では使用したことがないと記憶している。

事務局：地域から要望があれば消防署職員が簡易消火栓や消火器を使った訓練の協力をしている。公園等で訓練することが多い。

委員：自分の住む北部地域では簡易消火栓を使った訓練を実施している。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：スクールガードは何月号の広報で募集しているのか。また、子ども110番の家やスクールガードの登録者は市で把握しているのか。

事務局：令和5年度広報紙には募集記事なし。今後、広報紙で募集を検討する。また、スクールガードは継続の届け出を出された方は分かる。子ども110番の家は過去に登録してくれた方が亡くなりその子世代がステッカーを貼ったまま住み続けていたり、空家になっていたりと管理が非常に難しいため市ですべては把握できていない。

委員：スクールガードについては学校で把握している情報があるが、登録していても高齢等であまり活動出来ていない方もいれば、スクールガードに登録していても熱心に見守り活動を行っている保護者もいる。子ども110番の家も登録している家にPTAがお願いの訪問に行っているため、市で把握していないのであれば学校に聞いてもらえれば把握できると思う。

委員：区長会で登録してくれた子ども110番の家を学校が把握していない可能性もあるので、それぞれ情報共有できると良い。

委員長：令和6年1月の能登半島地震では今も避難生活を送っている方もいる。そうした現状も踏まえて取組が進んでいくと良い。委員会評価は、成果指標を踏まえると取組の推進が求められるということでDとする。

・基本目標2－施策（5）について事務局から説明。

事務局：欠席委員より共生型サービスの提供が進んでいない理由は何かという質問があったので紹介する。考えられる理由は、手続きが煩雑で分かりにくいことと、指定を受けるためにクリアする必要がある設備や人員配置のハードルが高いことが考えられる。

委員長：研修実施回数は目標を達成しているのでその他の取組をさらに進めてもらいたい。委員会評価はCとする。

・基本目標3－施策（1）について事務局から説明。

委員長：初めてのA評価となるが、取組内容の評価が2のある程度取組ができているということもあり、これで充分であるということではないのでさらに取組を進めてもらいたい。

・基本目標3－施策（2）について事務局から説明。

委員：地域包括支援センターや基幹相談支援センター等の外部機関が総合相談シートを使って情報提供したケースは令和5年度にどの程度あるか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局：総合相談シートは窓口で相談者本人が記載する点が使いにくいということで断らない相談情報共有会議用の依頼票を使用しているため、実際に総合相談シートを使って情報提供したことはない。

委員：多機関協働の仕組みを検討しているかと思うので、地域包括支援センターとしても多機関との情報共有の仕組みをしっかりと整えてもらえるとありがたい。

委員長：令和6年度に向けて準備を進めてもらったということで委員会評価はBとする。情報共有を含めて連携の仕組みをしっかりと検討してもらいたい。

・基本目標3－施策（3）について事務局から説明。

委員長：令和6年度に向けて順調に準備が進んだということで委員会評価はBとする。重層的支援体制整備事業を運用していくことで、想定していなかった課題等も見えてくると思うが、この委員会や関係機関の意見を聞きながら進めてもらいたい。

・中間目標設定について

委員長：最初に事務局から欠席した委員からの意見として紹介のあった成果指標に中間目標を設定することについて委員のご意見を伺いたい。

委員：これから中間目標を設定するというのも難しいのではないかと思う。

委員長：最終目標で設定した値を中間で別のものを設定するというのは難しいところがあるので、令和8年度に実施したアンケート結果を最終年度の目標に向かって順調に進んでいるのか確認するというのでいいのではないかと思う。

事務局：アンケート実施結果を報告する際には令和3年度の現状値から数字がどう変化しているのか等踏まえて報告させていただく。

・評価基準について

委員長：事務局案の評価基準で一通りシートを評価したが、資料2の事務局案から変更する必要はないとを感じるがどうか。

委員：問題ない。

3 その他

事務局：参考資料として配付した重層的支援体制整備事業実施計画は前回の委員会で委員からいただいた意見を踏まえて委員長と修正したもので配付させていただきました。次回の委員会は11月頃を予定しているので、正式に日程が決まったら通知するのでご予定をお願いします。